

2016年度 同志社大学大学院 司法研究科

前期日程入学試験問題 法律科目試験

(憲 法)

第1問 (配点: 50点)

2015年4月、X(中学校1年生)が在籍する公立中学校で入学式が挙行された。Xおよびその両親は、国旗の掲揚に際し、起立せず、国歌も斉唱しなかった。式後、校長が校長室でXに理由を尋ねたところ、Xは、「小学校6年生ころより君が代問題について両親と何度も話してきました。日の丸・君が代が戦前の日本・世界の歴史において果たしてきたマイナスの側面を考慮して、これに対する否定的評価に基づき、不起立・不斉唱という行為をとりました。私と両親との間で意見は一致しておりますが、今回の不起立・不斉唱は、とくに両親からの指示を受けてのものではありません。」と答えた。これに対し、校長は、Xに対して、「儀式において作法を守ることも重要で、次回から式典においては、きちんと起立・斉唱するように」と説諭した。

この事案に含まれる憲法問題について論じなさい。

第2問 (配点: 50点)

財産権、罰則、租税について、条例で定めることは可能か。問題となる条文と、関連する判例について説明した上で、あなたの見解を述べなさい。